

常陸太田市 工業用水道事業 経営戦略

令和 8 年度～令和 17 年度

令和8年3月

常陸太田市上下水道事業

目次

1 経営戦略策定の趣旨と位置づけ	1
(1) 策定の趣旨.....	1
(2) 計画期間.....	1
(3) 位置づけ.....	1
2 事業の概要	2
(1) 事業の現況.....	2
(2) これまでの主な経営健全化の取組み.....	3
(3) 経営比較分析表を活用した現状分析.....	4
3 将来の事業環境	6
(1) 水需要及び料金の見通し.....	6
(2) 施設の見通し.....	6
(3) 組織の見通し.....	7
4 経営の基本方針	7
5 投資・財政計画	8
(1) 投資・財政計画とは.....	8
(2) 今後の更新投資の考え方.....	8
(3) 経費についての考え方.....	9
(4) 工業用水道事業における財政収支見通し.....	10
(5) 財政収支見通しに対する今後の対応.....	12
(6) 投資・財政計画に未反映の取り組みや今後検討予定の取組の概要.....	12
6 フォローアップ	12
(1) 進捗管理と見直し.....	12
資料編	13

1 経営戦略策定の趣旨と位置づけ

(1) 策定の趣旨

常陸太田市の工業用水道事業は、常陸太田工業団地へ供給する常陸太田工業用水道事業と宮の郷工業団地へ供給する金砂郷工業用水道事業の2つの事業があります。

いずれも、工業団地の開発に合わせ事業を創設し、常陸太田工業用水道事業は平成4年1月22日から、金砂郷工業用水道事業は平成27年7月1日から受水企業への供給を開始しております。

工業用水道事業をとりまく経営環境は、収益は現在と同水準で推移する見込みであるのに対し、老朽化していく浄水場や管路等の施設更新や維持管理費に多額の費用が見込まれ、厳しくなっていくことが予想されます。

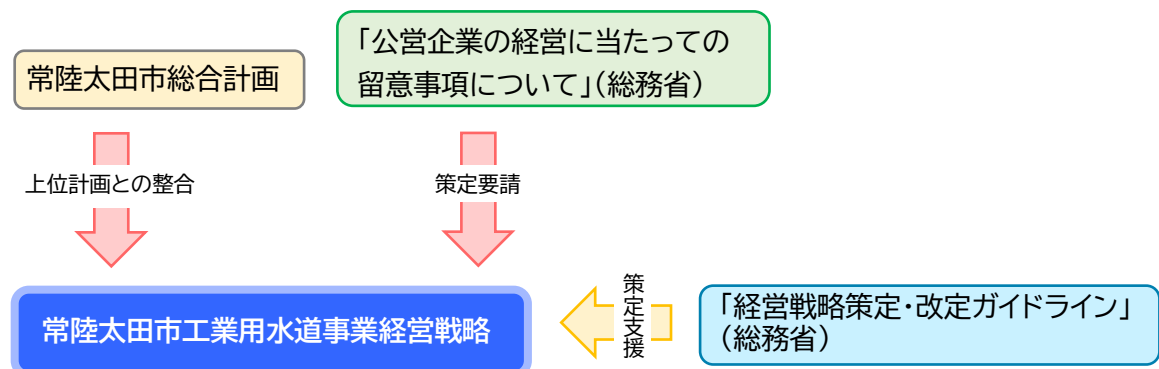
このような経営環境の変化に対応し、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な計画として、総務省から通知された「公営企業の経営に当たっての留意事項について（平成26年8月）」による策定要請に基づき、「常陸太田市工業用水道事業経営戦略」を策定するものです。

(2) 計画期間

経営戦略の計画期間については、総務省の『経営戦略策定・改定ガイドライン』において、事業の特性、個々の団体、事業の普及状況、施設の老朽化状況、経営状況等を踏まえて、10年以上の合理的な期間で設定すること示されていることを踏まえ、令和8年度から令和17年度の10年間とします。

(3) 位置づけ

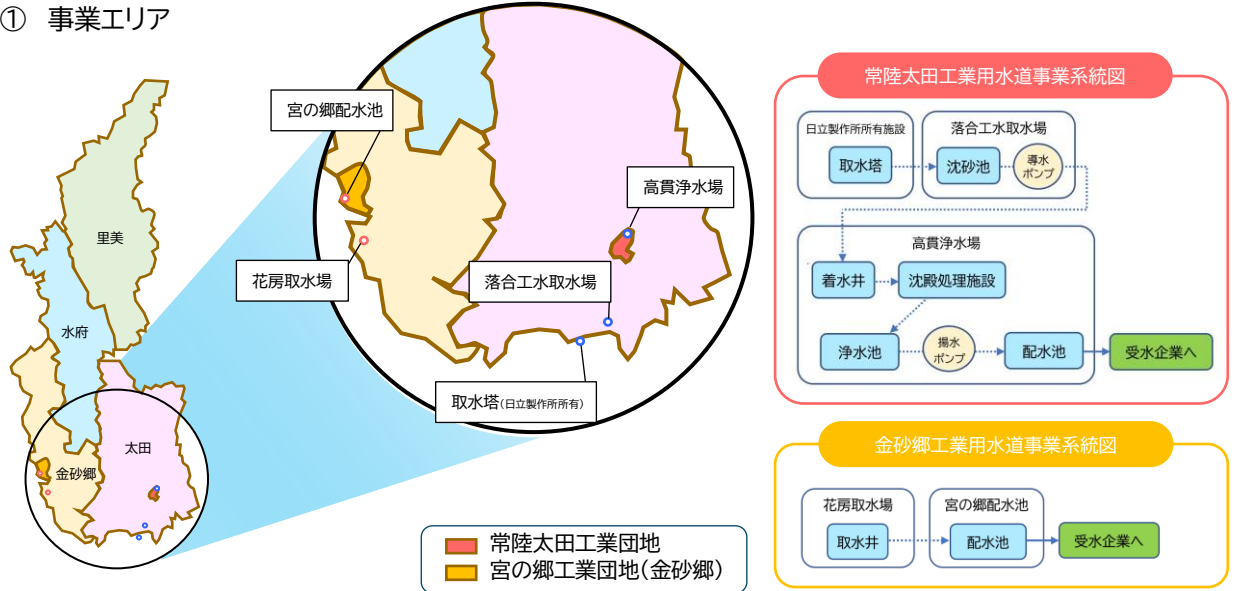
「常陸太田市総合計画」等の本市上位計画との整合性を図りながら、「経営戦略策定・改定ガイドライン（総務省）」に基づいて策定します。



2 事業の概要

(1) 事業の現況

① 事業エリア



② 給水状況

常陸太田工業用水道事業			
供用開始年月日	平成4年1月22日	基本使用水量 (契約水量)	1,296 m ³ /日(契約率 27%※)
給水先事業所数	3社	一日平均配水量	1,658 m ³
金砂郷工業用水道事業			
供用開始年月日	平成27年7月1日	基本使用水量 (契約水量)	800 m ³ /日(契約率 80%※)
給水先事業所数	2社	一日平均配水量	632 m ³

※契約率=基本使用水量/施設能力

③ 施設状況

常陸太田工業用水道事業					
	水源	ダム	施設能力	4,770 m ³ /日	
施設数	浄水場数	1施設	管路延長	導水管	4.1 km
	配水池数	1施設		配水管	1.9 km
金砂郷工業用水道事業					
	水源	地下水	施設能力	1,000 m ³ /日	
施設数	浄水場数	なし	管路延長	送水管	3.7 km
	配水池数	1施設		配水管	2.7 km

※②③の数値は令和6年度末時点

④ 料金体系

本市の工業用水道事業では、契約した基本使用水量(以降「契約水量」という。)により算定する責任水量制を採用しております。これにより、契約水量の全部または一部を給水しなかった場合でも、契約水量分の料金を徴収することとなります。

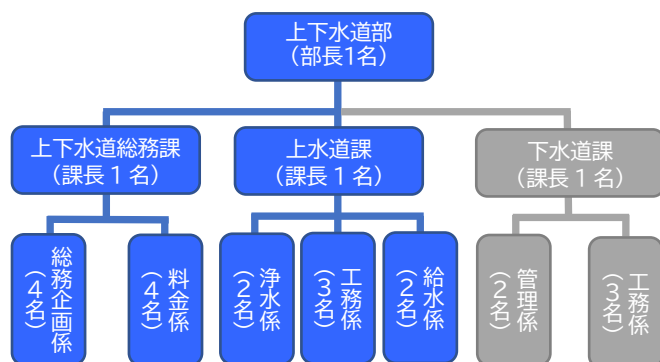
なお、契約水量を超えて使用した水量については、超過料金が適用されます。

常陸太田工業用水道事業 (1m ³ あたり・税抜)		金砂郷工業用水道事業 (1 m ³ あたり・税抜)	
基本料金※	45 円	基本料金	65 円
特定料金	45 円	特定料金	65 円
超過料金	90 円	超過料金	90 円

※常陸太田工業用水道事業においては、基本料金に加え、経営経費負担金(契約水量×20円(税込))を徴収しています。

⑤ 組織体制

工業用水道事業については、上下水道総務課と上水道課の職員が水道事業や簡易水道事業等の他事業と兼務して業務を行っています。



年齢区分	所属			
	上下水道部	上下水道総務課 (部長を含む)	上水道課	下水道課
61歳～	1	0	0	1
51～60歳	12	3	3	5
41～50歳	8	4	4	0
31～40歳	3	2	1	0
～30歳	0	0	0	0
合計	24	9	8	6
平均年齢(歳)	51	50	49	56

※令和7年度末時点 正職員数

(2) これまでの主な経営健全化の取組み

本市工業用水道事業では、施設の運転管理業務の民間委託や職員の業務を水道事業(上水・簡水)と合わせて実施することにより、委託料や人件費等の削減に努めてきました。

また、責任水量制を採用し契約水量で料金を徴収することで、経営の安定を図っています。さらに、常陸太田工業用水道事業においては、料金で賄いきれない費用の一部を経営経費負担金として、受水企業に負担してもらい、経営の健全化を図ってきました。

(3) 経営比較分析表を活用した現状分析

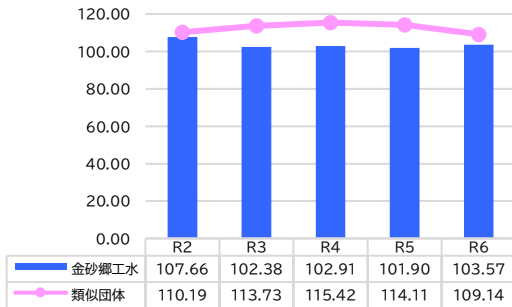
ここでは、経営比較分析表の指標のうち主な指標について、事業ごとに分析します。

※常陸太田市工業用水道事業全体の経営比較分析表については、巻末の資料編に掲載しております。

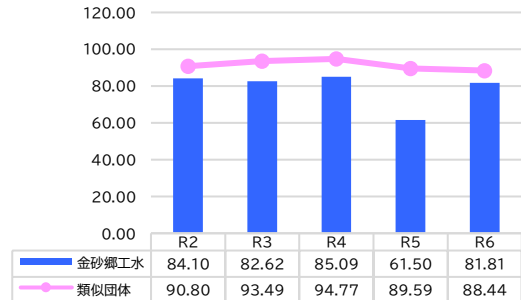


金砂郷工業用水道事業

経常収支比率(%)



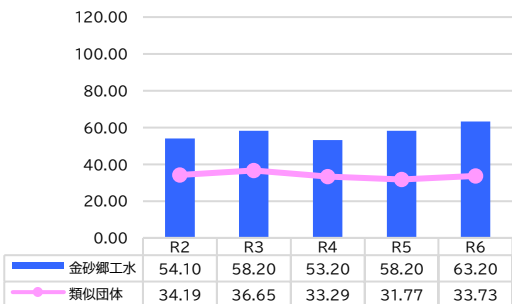
料金回収率(%)



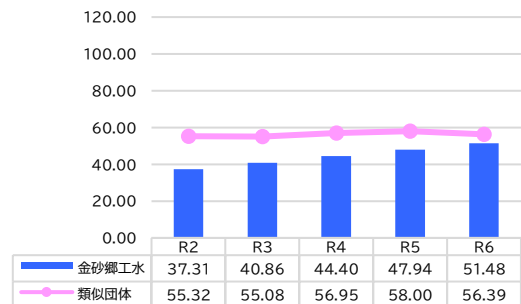
分析内容

経常収支比率は100%を超えており、黒字を維持していますが、料金回収率が類似団体平均と比べて低くなっており、収益の多くを一般会計からの繰入に頼っていることが分かります。今後、適正な料金水準を確保するため、料金改定の検討を進める必要があります。

施設利用率(%)



有形固定資産減価償却率(%)



分析内容

施設利用率は、類似団体平均を上回っているが、100%を下回っていることから、新規供給先の確保を進め、安定した供給のための施設維持に努める必要があります。また、有形固定資産減価償却率をみると、類似平均を下回ってはいますが、施設の老朽化が進んで来ている状況であることから、今後、施設を更新するための財源確保に努め、可能な限り計画的な施設更新が必要となります。

3 将来の事業環境

(1) 水需要及び料金の見通し

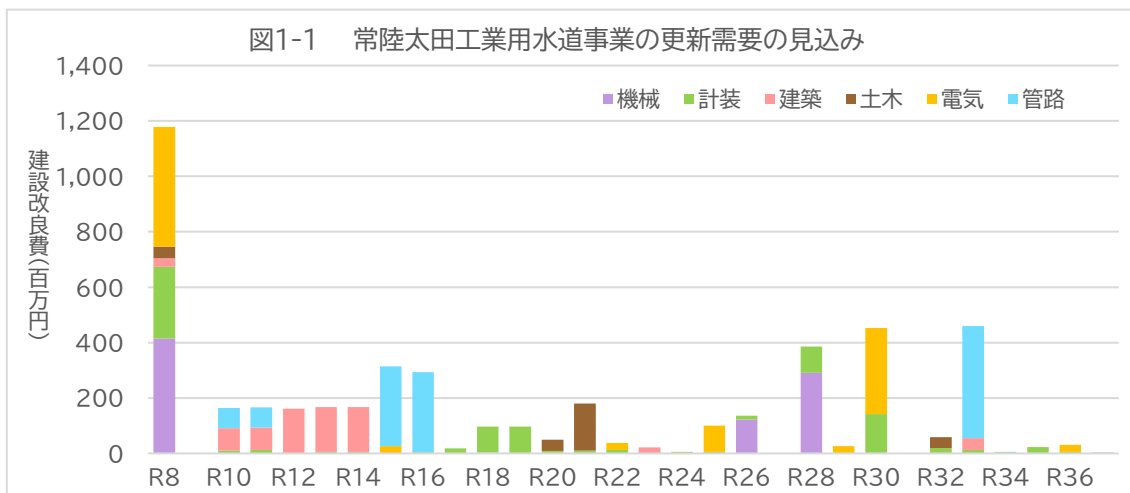
今後の水需要については、今後水量の急激な増加は見込めないため、現在の基本使用水量と同水準で推移していく見通しです。

(2) 施設の見通し

【常陸太田工業用水道事業】

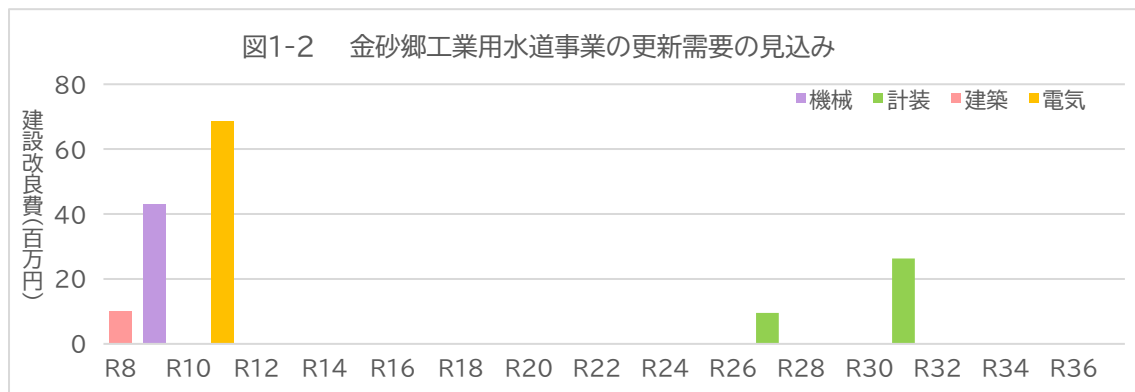
供用開始から33年が経過しており、機械・電気などの設備については法定耐用年数を経過している施設(図1-1参照)が出てきていることから、設備の更新が必要となります。また、更新に合わせ供給水量に見合った施設の最適化の検討も必要となる見込みです。

さらに、現在取水している取水塔(株日立製作所所有)の老朽化による施設廃止に伴う、新たな取水施設の整備が必要となります。



【金砂郷工業用水道事業】

更新時期を迎える施設(図1-2参照)は少ないが、不純物の堆積などにより送水管内が狭くなり送水量が減少傾向にあることから、定期的な管路洗浄を実施するなど、適正な施設能力の維持に努める必要があります。



(3) 組織の見通し

現在の組織体制については、業務を他事業等と兼務するなど事務の効率化を図っておりますが、これ以上の人員削減は難しいことから、現在の組織規模で運営していくこととなる見込みです。

上下水道部全体の平均年齢は51歳と高く、技術職員のなり手不足等が全国的な問題となる中、本事業においても若手職員の確保や技術継承等の人材育成が課題となっています。

4 経営の基本方針

【常陸太田工業用水道事業】

契約率が約3割にとどまっていますが、常陸太田工業団地はすでに分譲を完了しており、新規受水企業の開拓は難しいことから、契約している受水企業との情報交換を図りながら、今後の水需要を検証し、施設の最適化を進めるとともに、新規事業への多額の費用が見込まれることから、補助金等の財源の検討及び費用の抑制に加え、料金改定についても準備を進めていきます。

【金砂郷工業用水道事業】

契約率は約8割となっていますが、今後、管路洗浄等の維持管理や施設更新に多くの費用が見込まれることから、その他の費用の抑制や新規受水企業の開拓を進めるとともに、料金改定についても準備を進めていきます。



5 投資・財政計画

(1) 投資・財政計画とは

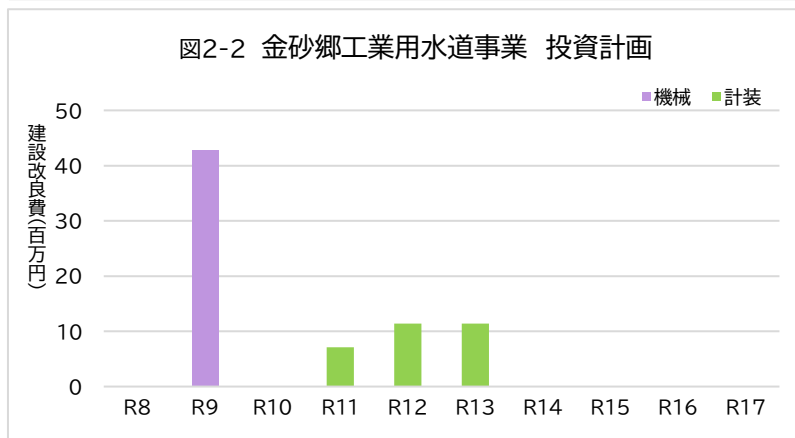
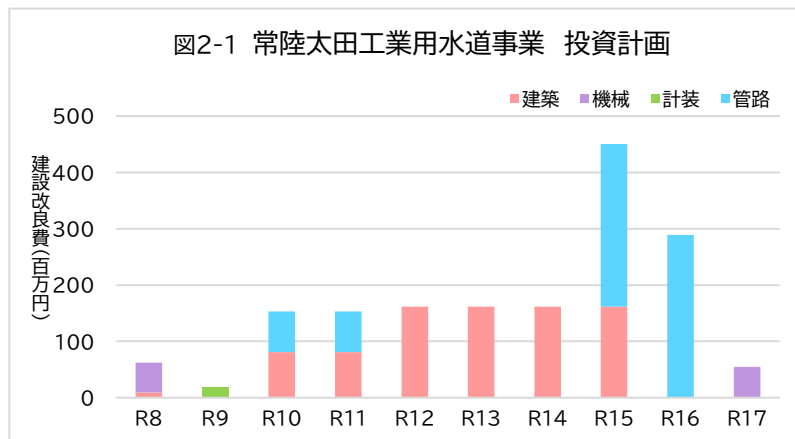
投資・財政計画は、経営戦略の中心となる計画で、事業の効率化や経営の健全化による取組みを反映した投資以外の経費を含めたうえで、施設・設備に関する投資の見通しを試算した「投資試算」と財源の見通しを試算した「財源試算」を収入と支出が均衡するように調整した計画で、経営基盤強化と財政マネジメント向上に資する重要なツールと位置づけられています。

(2) 今後の更新投資の考え方

当初のアセットマネジメントの考え方に基づく、将来の更新需要の見通しは計画期間内平均で、常陸太田工業用水道事業(図1-1(P6))で1年あたり約2.5億円、金砂郷工業用水道事業(図1-2(P6))で1年あたり約1.2千万円の投資が必要となりますが、老朽化対策や耐震化対策、施設の最適化を踏まえて優先順位をつけ実施することとします。

これにより、常陸太田工業用水道事業(図2-1)では、特に新設取水施設の建設(※)を最優先に進めることとし1年あたり約1.6億円、金砂郷工業用水道事業(図2-2)では1年あたり約7.2百万円の更新を実施することと試算します。

※本計画では、現在使用している取水塔と同等規模の施設を建設した場合の工事費を基に試算しています。



(3)経費についての考え方

項目			算定条件		
収益的収入	営業収益	料金収入	太田工水	R7契約水量+超過水量(R8予算値)を基に算出	
			金砂郷工水	R7契約水量を基に算出(超過水量は見込まない)	
		受託工事収益	見込まない		
	営業外収益	その他	見込まない		
		補助金	一般会計補助金(赤字補填分)のみを見込む		
		長期前受金戻入	過年度実績分+将来推計分		
収益的支出	営業費用	維持管理費	職員給与費	R8予算値に人件費上昇分を考慮	
			動力費	R8予算値に物価上昇分を考慮	
			修繕費	直近5年分実績平均値に物価上昇を考慮	
			材料費		
			薬品費	太田工水	R8予算値に物価上昇分を考慮
				金砂郷工水	見込まない
			その他	直近5年分実績平均値に物価上昇を考慮	
	3 減価償却費	過年度投資分+新規投資分			
	営業外費用	支払利息	過年度発行分+新規発行分		
		その他	直近5年分実績平均値に物価上昇を考慮		
損益			収益的収支の差額		

費用	算定条件	
資本的収入	企業債	建設改良費の100% 金利2.8% 据置期間5年 償還期限30年
	他会計出資金	見込まない
	他会計補助金	見込まない
	他会計負担金	見込まない
	他会計借入金	見込まない
	国(県)補助金	見込まない
	固定資産売却代金	見込まない
	工事負担金	見込まない
	その他	見込まない
資本的支出	建設改良費	投資計画に基づき算定
	企業債償還金	過年度発行分+新規発行分
	その他	見込まない
資本的収支不足額	資本的収支の差額	

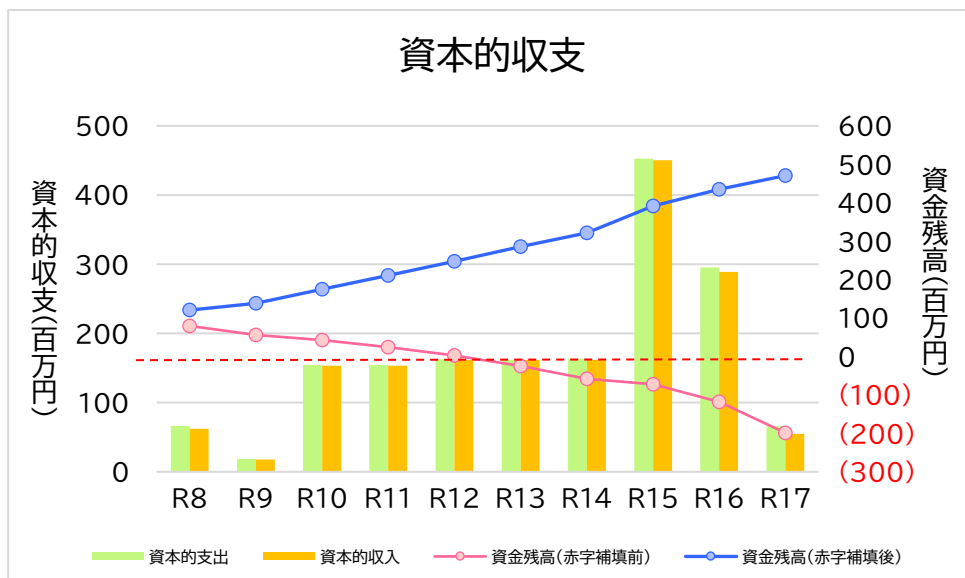
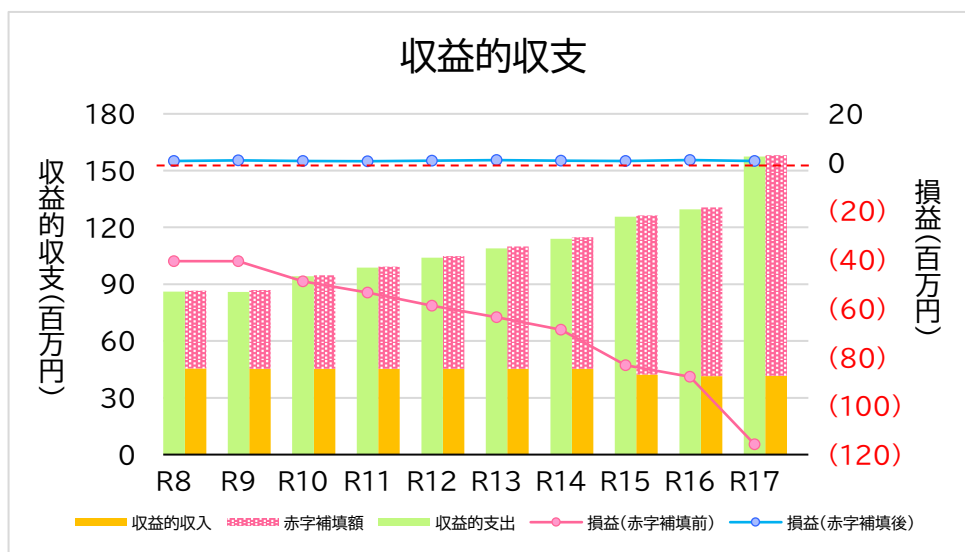
(4) 工業用水道事業における財政収支見通し

【常陸太田工業用水道事業】

収益的収支については、給水収益(料金収入)が現在と同水準で推移する見込みであるのに対し、物価高騰や人件費の上昇による修繕費や委託料等の維持管理費の増加、新設取水施設建設事業による減価償却費等の資本費の増加により、費用が10年間で約82%程度の増加となる見込みです。

損益については、令和8年度時点ですでに赤字額が約4千万円となっているため、収支ギャップが続く見通しで、令和17年度時点での赤字額は約1億円を超える見込みです。

資本的収支については、資金残高が10年間で約2.8億円の減少となり、令和13年度時点でマイナスとなるため、投資計画に沿った事業実施が実質不可能となります。



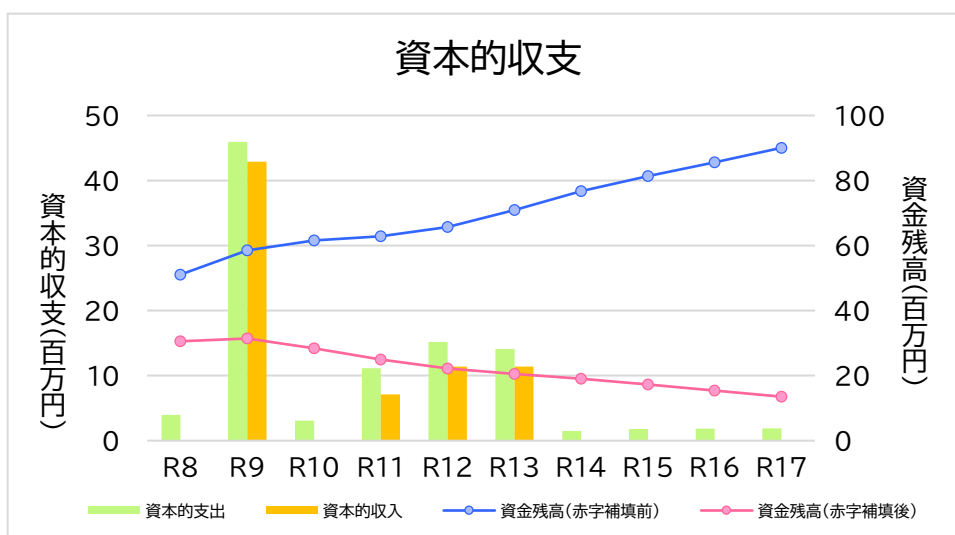
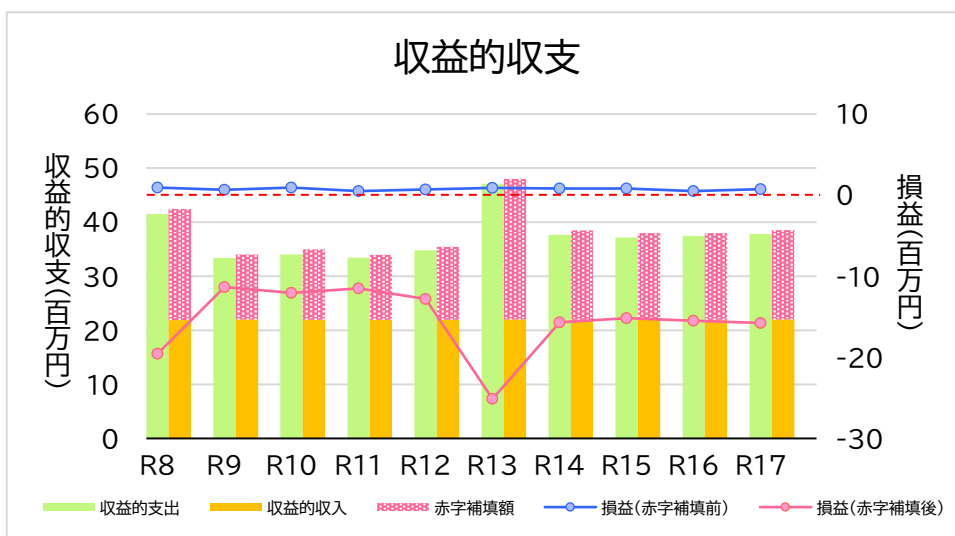
【金砂郷工業用水道事業】

収益的収支については、給水収益(料金収入)が現在と同水準で推移する見込みであるのに対し、物価高騰や人件費の上昇による修繕費や委託料等の維持管理費の増加により、費用が10年間で約20%程度※の増加となる見込みです。

損益については、令和8年度時点ですでに赤字額が約2千万円となっているため、収支ギャップが続く見通しで、管路洗浄を実施する令和13年度時点での赤字額は約2.6千万円となり、その後、1.5千万円前後で推移する見込みです。

※送水管洗浄(5年毎)の実施により、費用が一時的に大きく増額となるため、平準化して試算。

資本的収支については、資金残高が10年間で約1.7千万円の減少となります。



(5) 財政収支見直しに対する今後の対応

これまで、本市工業用水道事業会計は収支均衡を図るため、一般会計からの繰り入れにより赤字補填を受けてきましたが、赤字額が今後大きく増加していく見込みであることから、受水企業との協議を進めながら、料金改定を実施し、赤字額の縮減に努めます。

(6) 投資・財政計画に未反映の取り組みや今後検討予定の取組の概要

【常陸太田工業用水道事業】

新設取水施設の建設にあたっては、河川管理者である国との協議が必要となることから、今後、具体的な工法等の検討・協議を進め、工事内容が確定した時点で、費用負担等について受水企業と協議を行い、収支計画の見直しを実施していきます。

【金砂郷工業用水道事業】

分譲中の区画もあることから、今後の水需要の状況の動向を把握し、新規受水企業の獲得等について検討を進めていきます。

6 フォローアップ

(1) 進捗管理と見直し

PDCA サイクルを活用した進捗管理(モニタリング)を実施し、社会情勢や企業の生産活動の変化などによって起こりうる課題に対応するため、5年毎に定期的な見直しを行います。



常陸太田工業用水道事業 収益の収支

(単位：千円)

区分	年度	年度														
		令和8年度 計画値	令和9年度 計画値	令和10年度 計画値	令和11年度 計画値	令和12年度 計画値	令和13年度 計画値	令和14年度 計画値	令和15年度 計画値	令和16年度 計画値	令和17年度 計画値					
収益	1. 営業収益	29,745	29,805	29,747	29,747	29,747	29,805	29,747	29,747	29,747	29,747	29,747	29,747	29,747	29,805	
	(1) 料金収入	29,745	29,805	29,747	29,747	29,747	29,805	29,747	29,747	29,747	29,747	29,747	29,747	29,747	29,805	
	(2) 受託工事収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
収益	(3) その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2. 営業外収益	56,865	57,068	65,044	69,544	75,040	80,063	85,039	96,621	100,782	100,782	100,782	100,782	100,782	128,305	
	(1) 補助金	41,120	41,500	49,500	54,000	59,500	64,500	69,500	84,000	84,000	84,000	84,000	84,000	84,000	116,500	
収益	他会計補助金	41,120	41,500	49,500	54,000	59,500	64,500	69,500	84,000	84,000	84,000	84,000	84,000	84,000	116,500	
	(2) その他補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(3) 長期前受金戻入	6,647	6,369	6,369	6,369	6,365	6,365	6,365	3,447	2,608	2,608	2,608	2,608	2,606		
収益	その他	9,098	9,198	9,175	9,175	9,175	9,198	9,175	9,175	9,175	9,175	9,175	9,175	9,175	9,198	
	収入	86,610	86,873	94,791	99,291	104,787	109,868	114,786	126,368	130,529	130,529	130,529	130,529	130,529	158,110	
	(C)	86,610	86,873	94,791	99,291	104,787	109,868	114,786	126,368	130,529	130,529	130,529	130,529	130,529	158,110	
収益	1. 営業費用	85,532	83,748	91,453	91,768	92,790	93,079	93,707	100,914	92,213	92,213	92,213	92,213	92,213	112,179	
	(1) 職員給与	22,757	23,197	23,646	24,103	24,569	25,044	25,528	26,022	26,525	26,525	26,525	26,525	26,525	27,037	
	基本給	9,513	9,697	9,884	10,075	10,270	10,469	10,671	10,878	11,088	11,088	11,088	11,088	11,088	11,302	
収益	退職給付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	13,244	13,500	13,761	14,027	14,299	14,575	14,857	15,144	15,437	15,437	15,437	15,437	15,437	15,735	
	(2) 経費	43,662	38,928	45,434	45,792	46,542	46,907	47,277	60,775	53,801	53,801	53,801	53,801	43,544		
収益	動力費	6,505	6,702	6,769	6,836	6,905	6,974	7,043	7,114	7,185	7,185	7,185	7,185	7,257		
	修繕費	2,727	3,218	3,250	3,283	3,316	3,349	3,382	3,416	3,450	3,450	3,450	3,450	3,485		
	材料費	155	76	76	77	78	79	79	80	81	81	81	81	82		
収益	その他	34,275	28,933	35,339	35,596	36,244	36,506	36,771	50,164	45,085	45,085	45,085	45,085	32,720		
	(3) 減価償却費	19,113	21,622	22,373	21,873	21,679	21,128	20,903	14,118	11,887	11,887	11,887	11,887	41,598		
	費用	481	2,202	2,702	6,990	11,279	15,806	20,333	24,812	37,360	37,360	37,360	37,360	45,258		
支出	2. 営業外費用	26	1,747	2,247	6,536	10,824	15,351	19,879	24,357	36,905	36,905	36,905	36,905	44,803		
	(1) 支払利息	455	455	455	455	455	455	455	455	455	455	455	455	455		
	(2) その他	86,013	85,950	94,154	98,758	104,068	108,885	114,041	125,726	129,573	129,573	129,573	129,573	157,437		
支出	支出計	598	923	636	532	718	984	746	642	956	956	956	956	673		
	(D)	86,013	85,950	94,154	98,758	104,068	108,885	114,041	125,726	129,573	129,573	129,573	129,573	157,437		
	(E)	598	923	636	532	718	984	746	642	956	956	956	956	673		
特別	特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(G)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
特別	特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(G)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
特別	当年度純利益(又は純損失)	598	923	636	532	718	984	746	642	956	956	956	956	673		
	(E)+(H)	598	923	636	532	718	984	746	642	956	956	956	956	673		
	(E)+(H)	598	923	636	532	718	984	746	642	956	956	956	956	673		
特別	繰越利益剰余金又は累積欠損金	4,256	5,179	5,816	6,348	7,066	8,050	8,796	9,438	10,394	10,394	10,394	10,394	11,066		
	(I)	4,256	5,179	5,816	6,348	7,066	8,050	8,796	9,438	10,394	10,394	10,394	10,394	11,066		
	(I)	4,256	5,179	5,816	6,348	7,066	8,050	8,796	9,438	10,394	10,394	10,394	10,394	11,066		

常陸太田工業用水道事業 資本的収支

(単位：千円)

区分	年度	令和												
		8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度			
		計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値	計画値
資本的収入	1. 企業標準化	52,800	17,864	153,175	153,175	161,700	161,700	161,700	450,450	288,750	54,710			
	うち資本費平準化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	2. 他会計出資	9,542	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	3. 他会計補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	4. 他会計負担	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	5. 他会計借入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	6. 国(都道府県)補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	7. 固定資産売却代金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	8. 工事負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
9. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	(A)	62,342	17,864	153,175	153,175	161,700	161,700	161,700	450,450	288,750	54,710			
(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額	(B)													
資本的支出	1. 建設改良費	62,342	17,864	153,175	153,175	161,700	161,700	161,700	450,450	288,750	54,710			
	うち職員給与	62,343	17,864	153,175	153,175	161,700	161,700	161,700	450,450	288,750	54,710			
	2. 企業債償還金	3,980	980	980	980	981	0	1,755	2,307	6,685	11,185			
	3. 他会計長期借入返還金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	4. 他会計への支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	(D)	66,323	18,844	154,155	154,155	162,681	163,455	163,455	452,757	295,435	65,895			
資本的収入額が資本的支出額に不足する額	(E)	3,981	980	980	980	981	0	1,755	2,307	6,685	11,185			
補填財源	1. 損益勘定留保資金	13,611	16,065	22,966	22,466	22,664	22,113	21,888	31,147	22,405	41,479			
	2. 利益剰余金処分													
	3. 繰越工事資金													
	4. その他	5,668	1,624	13,925	13,925	14,700	14,700	14,700	40,950	26,250	4,974			
計	(F)	19,279	17,689	36,891	36,391	37,364	36,813	36,588	72,097	48,655	46,453			
補填財源不足額	(E)-(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
他会計借入金	(G)													
企業債	(H)	56,720	73,605	225,800	377,994	538,713	700,413	860,358	1,308,501	1,590,566	1,634,091			

金砂郷工業用水道事業 収益の収支

(単位：千円)

区分	年度	令和8年度 計画値	令和9年度 計画値	令和10年度 計画値	令和11年度 計画値	令和12年度 計画値	令和13年度 計画値	令和14年度 計画値	令和15年度 計画値	令和16年度 計画値	令和17年度 計画値
収益	1. 営業収入	18,979	19,032	18,980	18,980	18,980	19,032	18,980	18,980	18,980	19,032
	(1) 料金収入	18,979	19,032	18,980	18,980	18,980	19,032	18,980	18,980	18,980	19,032
	(2) 受託工事収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収益	(3) その他の	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 営業外収益	23,437	14,996	15,996	14,996	16,496	28,996	19,496	18,996	18,996	19,494
	(1) 補助金	20,500	12,000	13,000	12,000	13,500	26,000	16,500	16,000	16,000	16,500
収益	他会計補助金	20,500	12,000	13,000	12,000	13,500	26,000	16,500	16,000	16,000	16,500
	その他の補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2) 長期前受金戻入	2,857	2,857	2,857	2,857	2,857	2,857	2,857	2,857	2,857	2,856
収益	(3) その他の	80	138	138	138	138	138	138	138	138	138
	収入	42,416	34,028	34,976	33,976	35,476	48,028	38,476	37,976	37,976	38,526
	1. 営業費用	40,993	33,350	32,832	32,253	33,416	45,482	35,700	35,256	35,256	35,993
収益	(1) 職員給与	10,746	10,954	11,166	11,382	11,602	11,826	12,055	12,288	12,288	12,768
	基本給	4,682	4,773	4,865	4,959	5,055	5,152	5,252	5,354	5,457	5,563
	退職給付費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収益	その他の	6,064	6,182	6,301	6,423	6,547	6,674	6,803	6,934	7,068	7,205
	費用	23,202	15,520	13,701	14,157	14,487	25,343	14,348	14,487	14,628	14,770
	(2) 経費	3,545	3,653	3,689	3,726	3,764	3,801	3,839	3,878	3,916	3,956
収益	動力費	909	1,102	1,113	1,124	1,136	1,147	1,158	1,170	1,182	1,194
	修繕費	182	64	65	65	66	66	67	68	68	69
	材料費	18,566	10,701	8,834	9,241	9,522	20,329	9,283	9,372	9,462	9,552
収益	その他の	7,044	6,876	7,965	6,715	7,328	8,312	9,297	8,481	8,460	8,455
	減価償却費	491	10	1,209	1,206	1,375	1,665	1,949	1,907	1,857	1,806
	2. 営業外費用	36	10	1,209	1,206	1,375	1,665	1,949	1,907	1,857	1,806
支出	(1) 支払利息	455	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2) その他の	41,483	33,359	34,041	33,460	34,792	47,146	37,649	37,163	37,470	37,799
	支出	933	668	935	516	684	882	827	813	505	727
経常	損益(C)-(D)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(E)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別	損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(G)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(H)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当年度	純利益(又は純損失)	933	668	935	516	684	882	827	813	505	727
	(E)+(H)	933	668	935	516	684	882	827	813	505	727
	繰越利益剰余金又は累積欠損金	0	1,601	2,536	3,052	3,737	4,618	5,445	6,258	6,763	7,490

金砂郷工業用水道事業 資本的収支

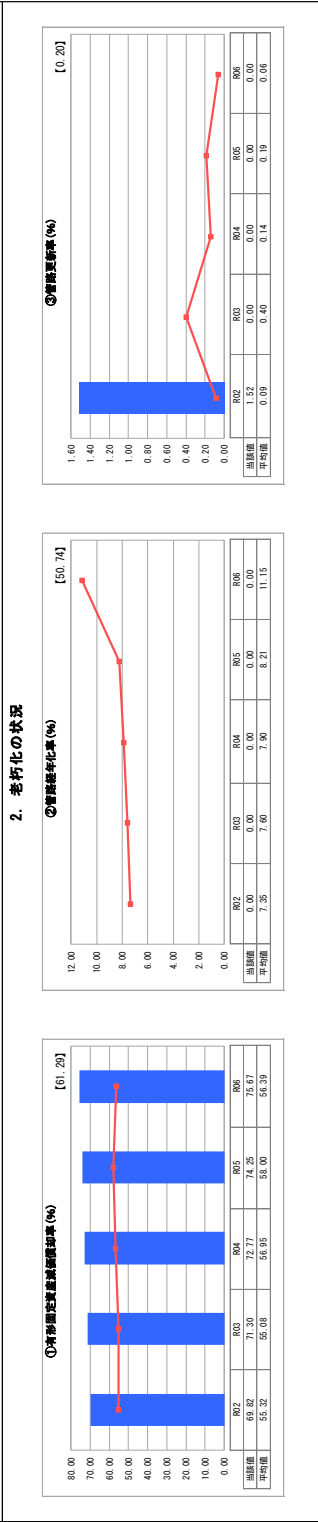
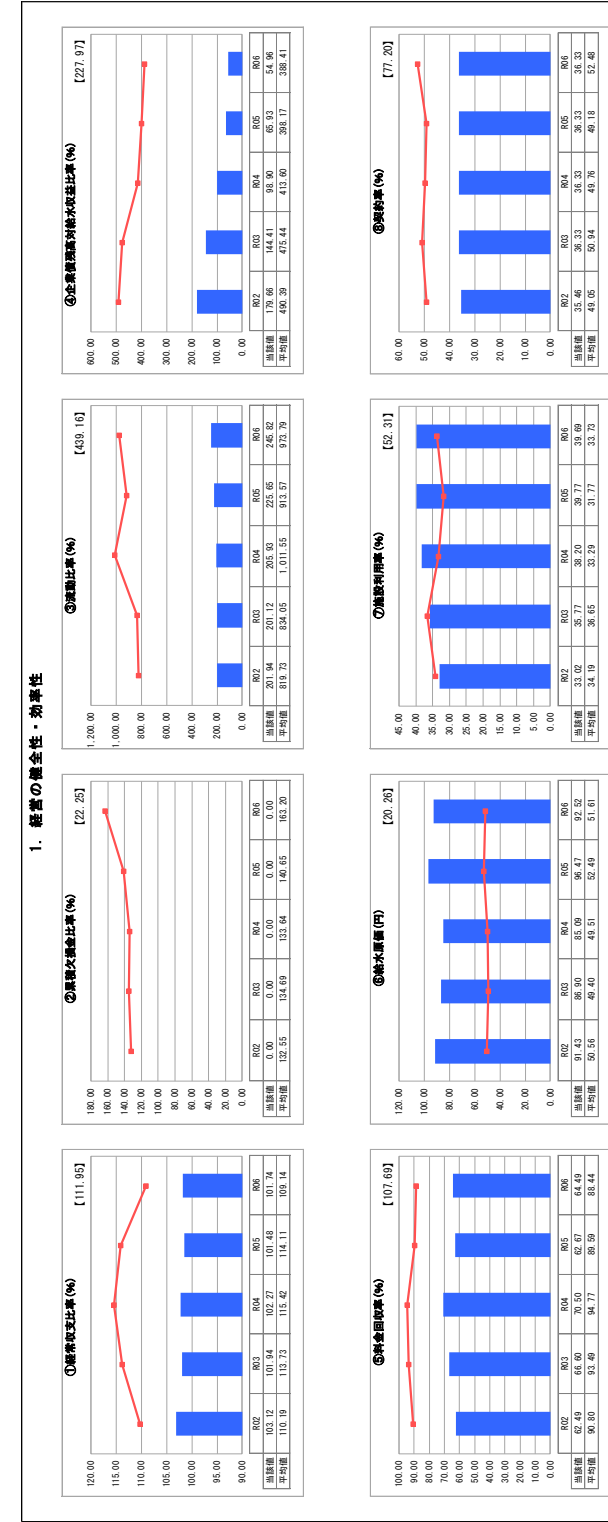
(単位：千円)

区分	年度									
	令和8年度 計画値	令和9年度 計画値	令和10年度 計画値	令和11年度 計画値	令和12年度 計画値	令和13年度 計画値	令和14年度 計画値	令和15年度 計画値	令和16年度 計画値	令和17年度 計画値
資本的収入	0	42,900	0	7,093	11,400	11,400	0	0	0	0
1. 企業費平準化債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち資本費平準化債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 他会計出資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 他会計補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 他会計負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 他会計借入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 国(都道府県)補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 固定資産売却代金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 工事負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	42,900	0	7,093	11,400	11,400	0	0	0	0
(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額										
資本的支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 建設改良費	0	42,900	0	7,093	11,400	11,400	0	0	0	0
うち職員給与費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 企業債償還金	3,939	3,060	3,062	4,043	3,806	2,676	1,490	1,791	1,841	1,893
3. 他会計長期借入返還金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 他会計への支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3,939	45,960	3,062	11,136	15,206	14,076	1,490	1,791	1,841	1,893
資本的収入額が資本的支出額に不足する額	3,939	3,060	3,062	4,043	3,806	2,676	1,490	1,791	1,841	1,893
1. 損益勘定留保資金	4,187	5,968	5,108	4,180	4,988	5,973	6,439	5,623	5,602	5,600
2. 利益剰余金処分額										
3. 繰越工事資金										
4. その他	0	3,900	0	645	1,036	1,036	0	0	0	0
計	4,187	9,868	5,108	4,825	6,025	7,009	6,439	5,623	5,602	5,600
補填財源不足額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(E)-(F)										
他会計借入金残高	13,466	53,306	50,244	53,294	60,888	69,612	68,122	66,331	64,489	62,596
(G)										
企業債残高										
(H)										

経営比較分析表／団体全体（令和6年度決算）

宇都県 常陸大田町
【事業概要】

業種名 法費用	業種名 工業用水事業	類似団体区分 類似団体	施設数 2
従業員数 103.12	従業員数 5,770	類似団体数 2	類似団体平均 2,200
資産不足比率(%) 110.19	自己資本比率(%) 84.7	契約水量(㎥/日) 2,096	管理費の概算 非設置
経常収益比率(%) 115.73	純水事業所数 5	契約水量(㎥/日) 2,096	
経常収益(100.00)	経常収益(100.00)	1日平均配水量(㎥) 2,200	



グラフ凡例
■ 類似団体値 (緑色)
■ 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和6年度実数平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
 ① 経常収益比率は、100%を超えており、かつ②黒字水損率も発生していないため、概ね健全な経営状態である。⑤純金回率は64.49と100%を大きく下回っており、一般委託からの補助金など水道料金以外の収入に依存している点に留意が必要。③流動比率は、類似団体平均を上回っているものの、100%を上回っていないことから、短期的な債務に對しての支払能力は有しているといえる。④企業債対総負債比率は、類似団体平均を大きく上回っており、返済負担が大きいことから、返済負担の軽減が急務である。⑤純金回率は、類似団体平均を上回っているものの、低い水準で推移していることから、今後の施設更新等においては、必要な状況を踏まえつつ、適正な施設更新を行う。
 ② 黒字水損率は、前年度から3.95減少したものの、類似団体平均を上回っていることから、引続き改善が必要である。③ 流動比率は、類似団体平均を上回っているものの、100%を上回っていないことから、短期的な債務に對しての支払能力は有しているといえる。④ 企業債対総負債比率は、類似団体平均を大きく上回っており、返済負担が大きいことから、返済負担の軽減が急務である。⑤ 純金回率は、類似団体平均を上回っているものの、低い水準で推移していることから、今後の施設更新等においては、必要な状況を踏まえつつ、適正な施設更新を行う。

2. 老朽化の状況について

① 経路経年比率は、法定耐用年数を超過した管路がないためである。② 経路更新率は、0.20と低い水準である。③ 老朽化が進む管路を更新することから、今後、老朽化が進む管路を重点的に更新することから、今後の施設更新等においては、必要な状況を踏まえつつ、適正な施設更新を行う。

全体総括

経営の健全性・効率性については、一般委託からの補助金など水道料金以外の収入に依存している状態にあるため、水道料金水準の検討と更なる事業計画に努める。また、経路更新率の向上に努める。今後、老朽化が進む管路を重点的に更新することから、今後の施設更新等においては、必要な状況を踏まえつつ、適正な施設更新を行う。